

# Let's Try Biodiversity Pick Up !

Part **2**

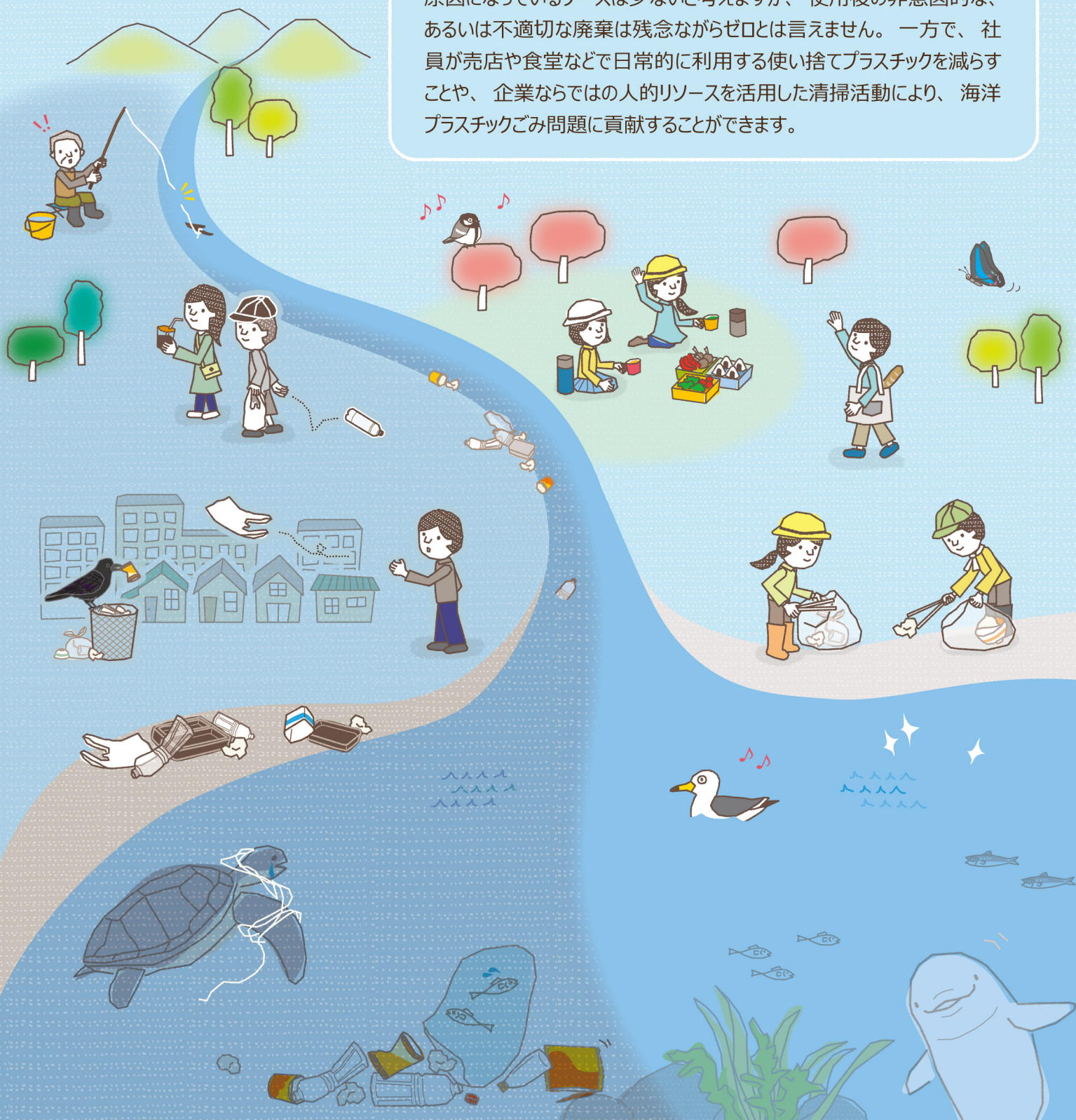
## 陸から減らそう！ 海洋プラスチックごみ



どこでもできる環境 / 生物多様性への配慮

### 【電機・電子業界と海洋プラスチック問題】

プラスチックは、製品の機能性維持や安全性等の観点から有用な素材であり、持続可能な利用を進めていくことが求められています。電機・電子製品に使われているプラスチックは直接的に海洋プラスチック汚染の原因になっているケースは少ないと考えますが、使用後の非意図的な、あるいは不適切な廃棄は残念ながらゼロとは言えません。一方で、社員が売店や食堂などで日常的に利用する使い捨てプラスチックを減らすことや、企業ならではの人的リソースを活用した清掃活動により、海洋プラスチックごみ問題に貢献することができます。



# 生態系を守る活動

# プラスチックごみを減らして 海の生態系を守る

## 愛知目標との関連



## SDGsとの関連



### 活動の概要

事業所の周辺や河川敷・海岸などでの清掃活動、事業所で使用する使い捨てプラスチックを減らすことで、海洋へのプラスチックごみ等の流出を抑制し、海の生態系を保全します。

### 活動事例

- ◆ 事業所周辺や河川敷、海岸の清掃
- ◆ マイボトル、マイバッグの利用促進

?



## どうしてするの？

### ● 海のいきものを守ります

ポイ捨てや意図せず風などに飛ばされて海洋に流出したプラスチックの回収は難しく、これらを誤飲・誤食したり体に絡まったりすることで、海の生きものの命や生活を脅かすため、早めに陸域で回収することが重要です。

また、プラスチックの使用量自体を減らすことで非意図的に発生するプラスチックごみを抑制できます。

ウミガメの体にプラスチックが絡まっている



日本ウミガメ協議会提供

### 世界で進む

### 使い捨てプラスチックの規制

プラスチックごみは国際的な問題であり、海外では既に 45 か国以上でレジ袋の使用禁止が議会承認されている他、EU では代替可能な使い捨てプラスチック（ストロー、コップ、マドラー等）の使用を 2021 年から禁止する法案が可決されています。日本でも 2020 年 7 月からレジ袋が有料化される中、レジ袋以外でもより一層の取組みが必要です。



?



## どうやるの？

- ① プラスチックごみの問題を学習する
- ② 事業所内外や、河川敷や海岸で清掃活動を行う  
日頃の清掃活動に生物多様性保全の意味を持たせることで意義が深まります
- ③ 事業所内での使い捨てプラスチックの使用量を減らす



Q 事業所以外では  
どこでやるといいの？

A 外部の団体が主催する河川敷や海岸の清掃活動などに参加してみましょう。例えば、「(一社) JEAN」、「プラスチック・スマートキャンペーン」、「(特非) 荒川クリーンエイド・フォーラム」のホームページでは清掃活動の情報が掲載されています。



清掃活動の様子

Q 会社に入っているテナント（売店や食堂、カフェ）、自動販売機などで使い捨てプラスチックを中止するにはどうすればよいの？

A 使い捨てプラスチックの代替品がないかを検討し、テナントに相談しましょう。中止する上では、マイボトル・マイバッグの利用促進など社員に協力をお願いすることも重要です。

飲み物は  
このボトルに  
入れて下さい



マイバッグ  
持って来る

Q 回収したごみは  
どうすればいいの？

A 自治体によってごみの分別ルールは異なります。またボランティア活動の場合、分別方法が異なる場合があります（全て同じ袋に入れてよいとしている場合など）。ごみ拾いを実施するエリアの自治体に、事前に連絡をとって必要な手続きを確認しましょう。

例

確認項目

- 実施日時
- 具体的な実施場所
- 想定される回収ごみの量
- 回収したごみの処理方法

※ごみ袋(ボランティア用)やトンク、軍手などの貸し出しを行っている自治体もあります

Q 生分解性プラスチックの  
ものなら問題ないの？

A 生分解性プラスチックは、自然界の微生物によって、最終的に水と二酸化炭素に分解されるプラスチックのことをいいますが、現在開発されているものは地中では分解しても海洋では非常に分解されにくい、もしくは特定の環境でしか速やかに分解されないものがほとんどです。また分解されるなら捨ててもよいという誤った認識が広まる可能性もあるため、まずはプラスチックの使用量を減らすことが重要です。



活動推進  
point

- ①使い捨てプラスチック製品・包装を紙や木材に切り替える際は、FSC 認証の紙・木材など生物多様性に配慮したものを検討しましょう。
- ②活動を実施したら NGO や省庁のキャンペーンなどに報告し、活動を PR しましょう。  
【報告先例】プラスチックスマートキャンペーン（環境省）など
- ③生物資源を原料としているバイオプラスチックの使用については、トウモロコシなどの可食部利用では食糧問題に、森林資源由来では森林破壊につながらないように、注意しましょう。

# 海洋プラスチックごみ問題とプラスチックの資源循環

既に世界の海に存在しているといわれるプラスチックごみは、合計で

1億5,000万トン<sup>※1</sup>。そして、少なくとも年間800万トンが、新たに流入していると推定されています<sup>※2</sup>。

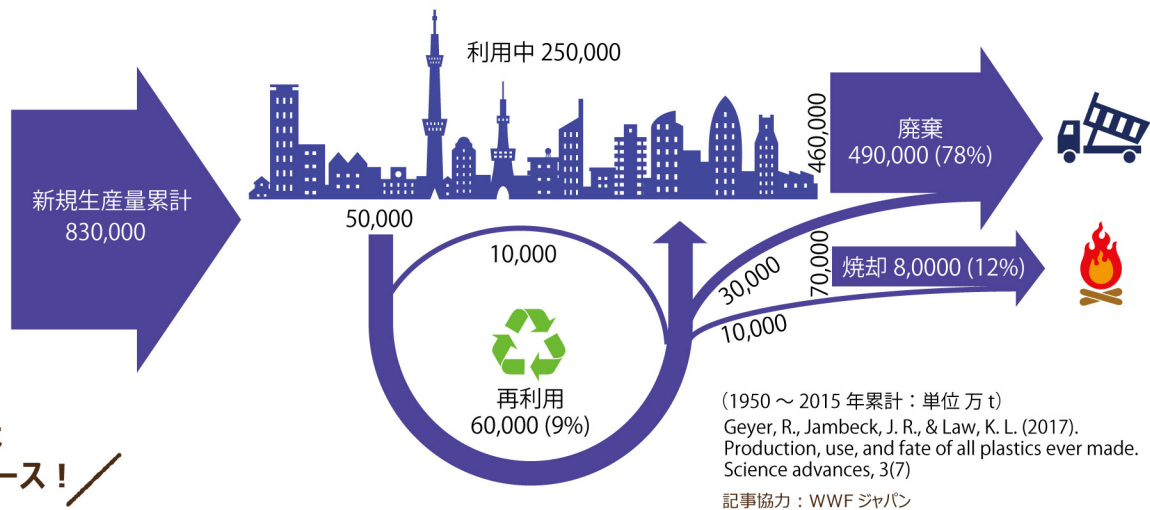
しかも、一度放出されたプラスチックごみは容易には自然分解されず、多くが数百年以上もの間、自然界に残り続けます。また、紫外線や波などの影響で細かくなったプラスチックは「マイクロプラスチック」と言われ、回収がより難しくなっていきます。こうした大量のプラスチックごみを海の生物が誤飲したり、ごみが体に引っかかって傷ついたり死んでしまったりする事例も多く報告されるなど、既に海の生態系に甚大な影響を与えています。

一方で、プラスチックの年間生産量(世界)は過去50年で20倍に増大しましたが<sup>※2</sup>、これまでにリサイクルされたものは、生産量全体のわずか9%に過ぎず、ほとんどが廃棄(78%)されています<sup>※3</sup>。特に日本は1人当たりの容器包装プラスチックごみの発生量が世界第2位<sup>※4</sup>であり、その多くは焼却(熱回収)されており、温室効果ガスの増加に繋がっていると指摘されています。こうした現状から、プラスチックの利用を社会全体でどう変えていくかが問われています。

※1: McKinsey & Company and Ocean Conservancy (2015)  
 ※2: ELLEN MACARTHUR FOUNDATION (2016)

※3: Geyer et al. (2017)  
 ※4: 国連環境計画 (UNEP) 報告書「Single-Use Plastics」(2018)

## これまでに生産されたプラスチックの分布状況



まずは  
リデュース!



### 資源循環にとって大切な「3R」

#### リデュース Reduce 【使用量を減らす】

3Rで最も重要なことは過剰包装をやめるなど使用量を減らすことです。そのためには、使い捨てない容器へ置換えたり、購買時に不要なプラスチックを受け取らないことが有効です。



#### リユース Reuse 【再利用する】

使い捨てにせず、同じものを繰り返し活用することが、ごみを減らすために大切です。



#### リサイクル Recycle 【再生産する】

不要になったペットボトルや食品トレーなどを洗浄・分別して再生産しやすくしましょう。また、再生品を積極的に使うことも重要です。



【問合せ先】 一般社団法人 日本電機工業会 環境部 (幹事事務局) TEL: 03-3556-5883